

と考えております」と言われているが、反省された点は何か。この間、職員採用において、法に基づいて規則があるのに、それらに基づかないでやったというこの行為を反省すべきであるというところで、不信任を出し、市長選挙をし、今まで来ている。ここについての反省は、やはり最大の中心だと思つ。

採用方法の確立という点について、市長のかかわりというところについてどのように考えられているのか。地方公務員法、そして地方公共団体の条例や規則に従った上で市長は任命する権利があるということであり、全国どこにおいても市長が職員の採用に関わらないような法律になつていふと思う。採用方法の一番の根本は不正ができないようなシステムをつくるということだと思ふ。だれが考えても公正であるといえるような、お金でもって順番が変えられないような、圧力でもって変えられないような、だれがそういうことを考えてもできないような仕組みをつくること

大切だと思ふ。現時点としてどのように考えられているか。

A 過去1期目を振り返って何を反省するかという点ですが、余り細かいしゃべり過ぎない、人の意見を聞くということがまず一つです。それと、余り遠くのこと、将来を語つても、十分理解されない面があると思つていきます。そして、余り先を急ぎ過ぎないということと周囲の状況をよく配慮しながら、職員の感情にも心をいたして、議会の皆さんの思いも理解しながら職務に当たるといふことが私の反省すべき点だと思つております。

多くの自治体では市長は職員の採用問題には介入しないのになぜ関与するのかというところについては、採用権者、任命権者である市長が、採用、職員の教育、そういう部分に積極的に関わつてこなかったこと自体が大きな問題だと認識しています。多くの自治体はそれを当然のことのように容認しているかもしれませ

が、市民の皆さんの役に立つよい人材を選んで、育て上げていこうとしますと、任命権者である市長が、採用の段階はもとより、教育、その後の異動の時点、人事評価の時点も、いろいろと関与していくことが大事だと思つていきます。ただし、過剰な関与ではだめだと思ひます。加西市の現状は、その過剰な関与に至るまでの初歩的な部分でしつかりとされてない部分がありましたが、そこについては私がものを言ってきたという認識であります。

地域ブランドづくり

Q 地域ブランドの具体的な考え方として、どのようなものがあるのか。先般、ブドウ部会で加西コールドンベリーAの商標登録を取得している。行政として、この加西コールドンベリーAの商標登録取得に対してどのような取り組みを今後される方針なのか。

A 加西のコールドンベリーAが、地域ブ

ランド、地域団体商標というところで登録されました。これは、県内の農産物では第1号ということと認証されています。ブドウが兵庫県の安心ブランドに認定された中で、それと製品名と産地名と組み合わせた地域ブランドということ、今のコールドンベリーAが特許庁より認証されたということと。このような中で、県内第1号ということとを契機にしまして、さらに活性化を図っていききたいと考えています。

また、加西ブランドの育成には新たな農作物の開発ではなく、既に加西に存在しながら市民に知られていない魅力的な存在が、食材が多数ございます。そのように埋もれている加西産の魅力ある食材の発掘や、それらの資質と評価のPRに努め、市内消費の拡



大、直販ルートの開拓や確保などに取り組むとともに、商工会議所と協力いたしましてWeb特産品を立ち上げ、加西ブランドの育成とPRに努めてまいりたいと考えています。

加西病院の経営強化と位置づけについて

Q 病院経営の強化と一言で言っても、現在の医療事業は医療の高度化や専門化、または医療の質の向上に対する市民の要望の高まり、そして増大する医療費の抑制政策がとられ、医療法や医療保険制度の改正など、医療現場、経営について、複雑多様化する傾向にある。ますます厳しい病院経営が、全国各地余儀なくされている。

そこで、経営強化の位置づけとして、現在の市民のニーズに添えての一次的な強化なのか、市内で唯一の総合診療機能を有し、地域の中核の医療機関市立加西病院として今後この先守っていくための長いスパンでの経営強化なの